

列状間伐現地検討会に参加

森林技術・支援センター

平成27年11月11日 関東森林管理局森林整備部資源活用課が主催し、棚倉森林管理署管内において、近隣森林管理署、地方公共団体職員（福島県、栃木県）及び関係請負事業者等の参加のもと開催した「低コスト作業システム推進のための列状間伐現地検討会」に当センターも参加。



渡邊企画官（間伐推進担当）により、森林林業の現状を踏まえた高効率で低コストな作業システムを推進する観点から見た列状間伐の必要性について説明

・「めざす姿」を実現するために、何ができるか？何をすべきか？

- 丈夫で効率の良い路網
- 生産性の高い作業システム
- 意欲的な経営者
- 優秀な現場技能者
- 努力する者が報われる公平な競争環境（特に民有林は、）
- 森林所有者とのコミュニケーション
- 森林組合の役割発揮と森林経営計画の活用



寺川森林整備部長

作業の安全対策・効率性の観点から列状間伐を推進して頂きたい。

また、ちょっと厳しい話であるが、低コスト作業システムへの取り組みは、民・国とも「生きるか、死ぬか」の気持ちを持って取り組んで頂きたい。

事業者の皆さまには、本日、秋晴れの貴重な一日を当検討会のため参加していただきありがとうございます。



坂井棚倉署長

林業における労働災害は、全産業の中でも飛び抜けて突出している。中でも伐倒関連災害が多いので、列状間伐は作業の安全対策からも有効である。

○内容：

平成25年度は福島森林管理署管内、平成26年度は茨城森林管理署管内において列状間伐を中心とした低コスト作業システムへの普及・定着に向け検討会を実施したが、依然として列状間伐の実施率に、地域によって大きな差異が生じている状況にある。

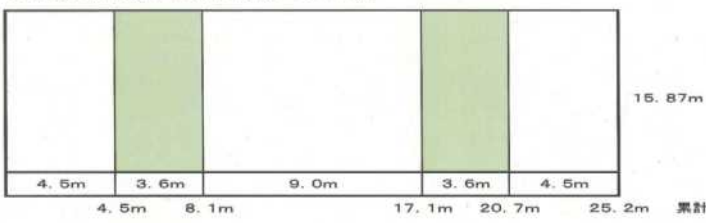
本年度は列状間伐の取組状況の少ない地域で実施し、列状間伐実行跡地において標準地と施業の比較検討及び事業実行事業体の意見を聞くことにより事業者の列状間伐に対する考え方及び発注者側の問題点を確認することを目的として実施。

○出席者：

局（関係各課）、白河支署、磐城署、棚倉署、日光署及び塩那署の関係職員

各森林管理署管轄の23事業者、福島県及び栃木県各県担当者の総勢124名

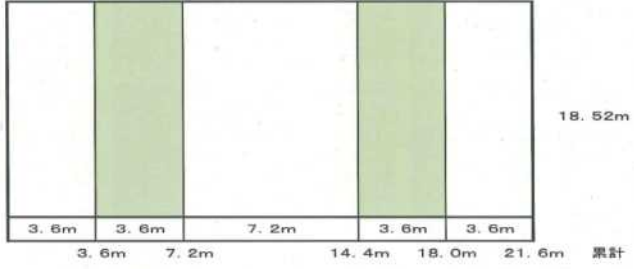
列状間伐の標準地 (0.04HA 2伐5残 3000本植)



幅は傾斜により長くなる。
 おおむね10度で16.1m
 おおむね20度で16.8m
 おおむね30度で18.2m
 おおむね40度で20.6m

スギ2伐5残

列状間伐の標準地 (0.04HA 2伐4残 3000本植)



幅は傾斜により長くなる。
 おおむね10度で18.8m
 おおむね20度で19.7m
 おおむね30度で21.4m
 おおむね40度で24.2m

ヒノキ2伐4残



列状間伐現地検討会箇所

伐採幅の尺棒を使って列幅を決める！



残木に傷がつかないように杭を設置！

これまで多くの間伐を実行してきたが、今回初めて列状間伐を実施した。当該現場は、伐倒2人、集材1人、造材1人、搬出・運搬1人の5人体制で実施した。

初めての列状間伐ということで、選木に当たっては森林管理署の指導等を頂きながら実行した。スギは2伐5残、ヒノキは2伐4残である。当初は真っ直ぐに列を通すことが難しかったが、途中からは伐採幅の尺棒を使い実行した。

また、搬出時に残木に傷がつかないように杭を設置しながら搬出した。なお、当該地が、今回の現地検討会場場所となるので、丁寧に実行した関係で労働生産性は？であるが、全体を通じて伐倒によるかかり木は少なかった。



請負事業者：(有)スズキ木材



事業地説明：
 棚倉署 山浦総括森林整備官



内海資源活用課長

最後に資源活用課長から、列状間伐は低コスト高効率な作業システムが導入できる間伐方法であり、伐倒によるかかり木の発生も少なく、事業者の労働安全を図るうえでも有効である。本日は列状間伐を推進するに当たり、伝えることは全て伝えたと考える。当検討会を通じ、列状間伐がより多く実行・発注されることに期待する。旨、挨拶し検討会等終了した。

※参加者からは、
 定性間伐と比較して列状間伐の伐採木の選木の方法・歩係り、及び民有林において普及する場合の問題点等について、活発な意見交換が行われました。